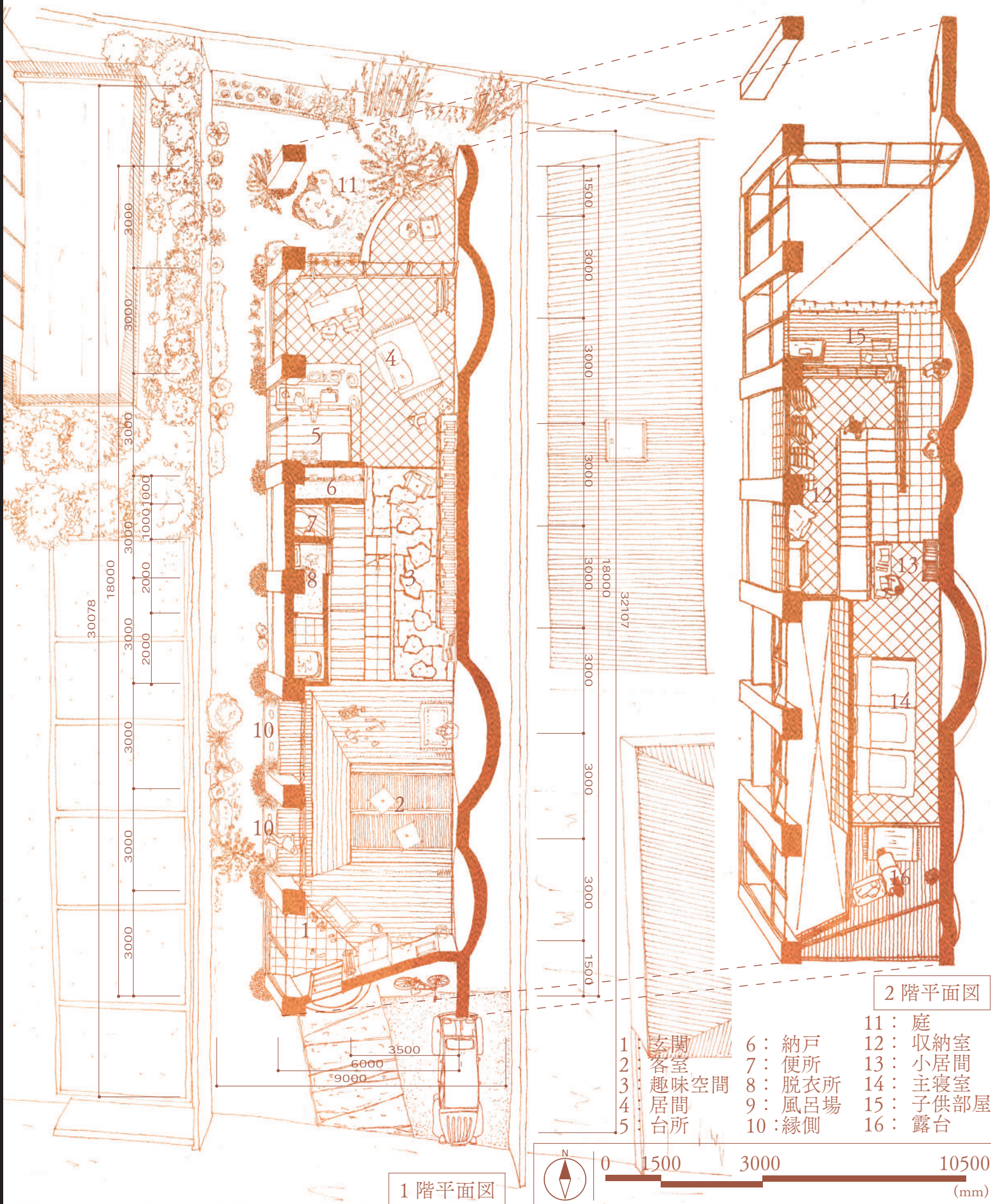
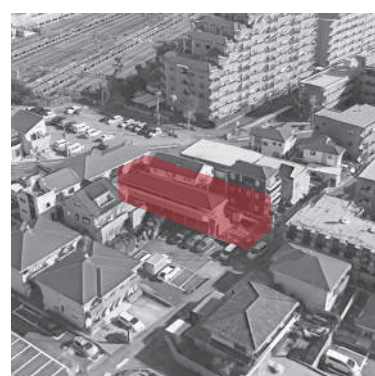


西陽と家

リビング北側から南側を見る

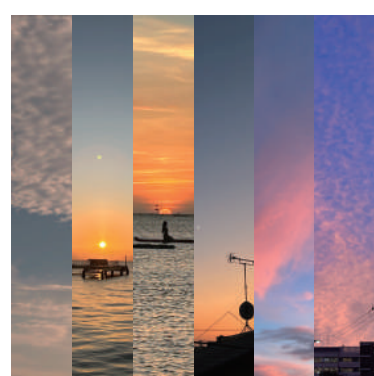


1. 習志野市の狭小地



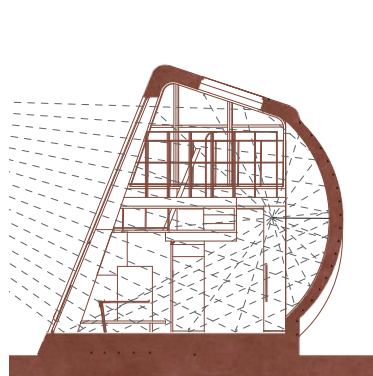
敷地：千葉県習志野市谷津
33,000×9,000[mm]
第一種低層住宅地域
住宅に囲まれ、朝から日中にかけて日が入らず西陽がよく入る敷地である。

2. 西陽との暮らし

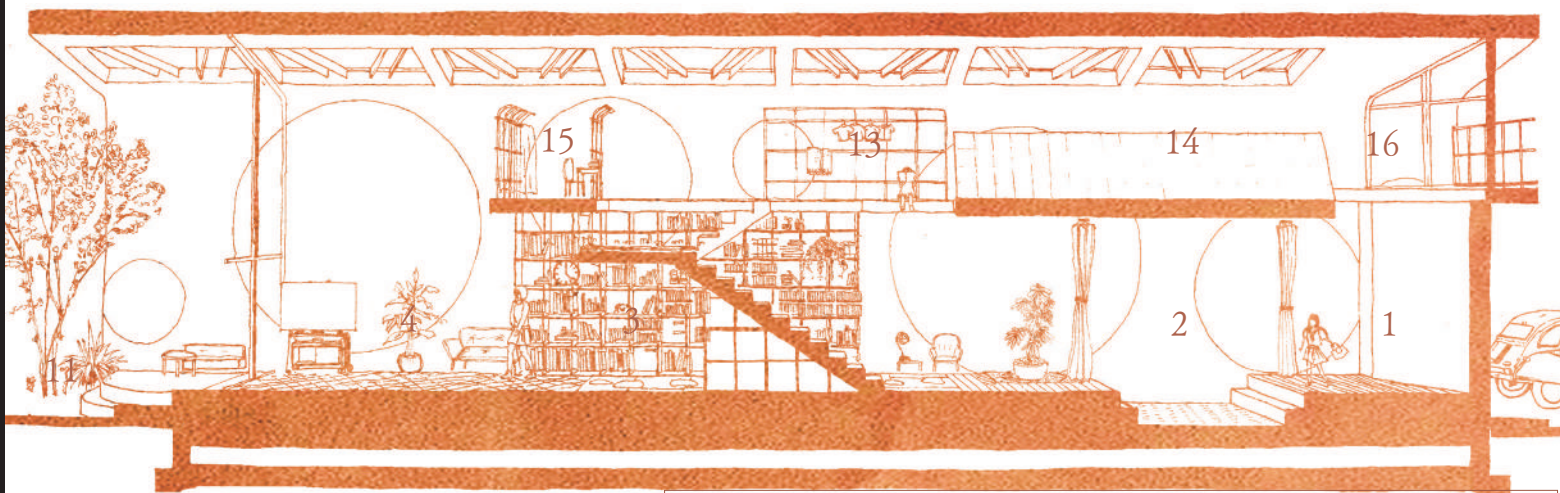


西陽が部屋を染め、夜を迎える支度をする。
嫌われがちな西陽を暮らしのリズムを生む存在として受け止め、長い夜を過ごすための住宅を設計した。西陽を受けることで輝くこの家は、まっすぐに帰りたい家として日々の終わりにそっと寄り添う。

3. 西陽とパラボラ

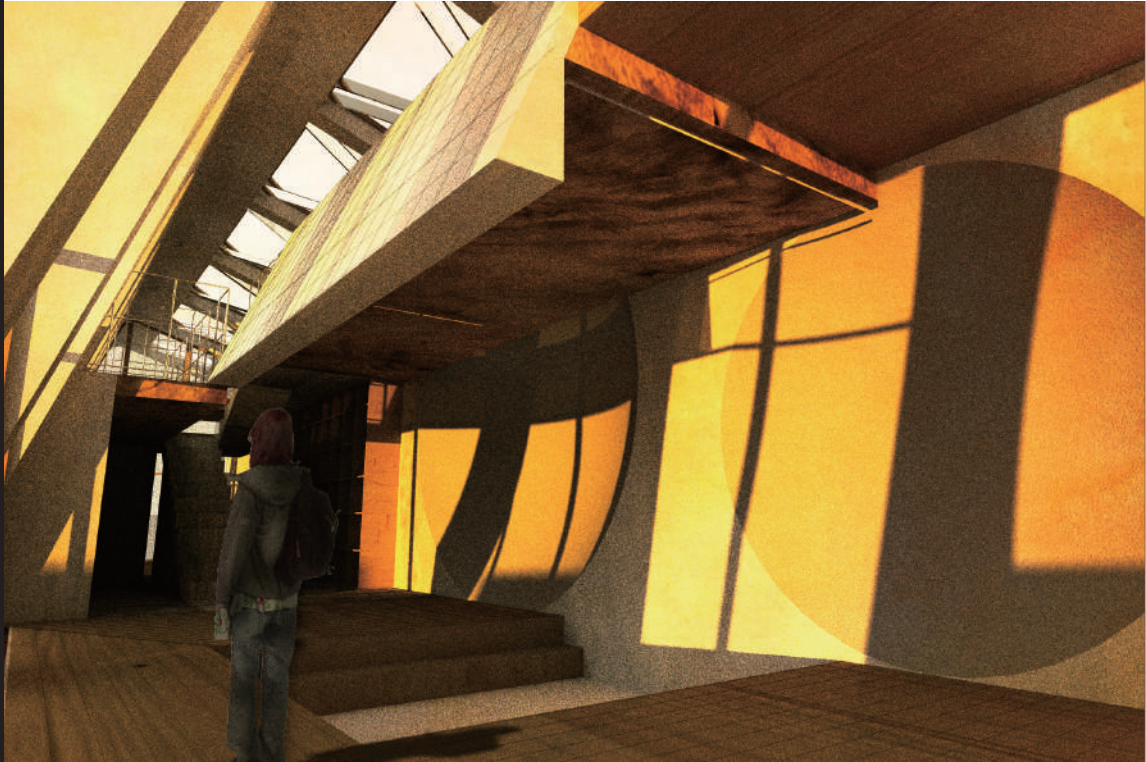


この建物に表出するパラボラアーチは西陽を集約、拡散させる効果を持つ。一軸的な時間の流れを強調する西陽はパラボラで受けることで柱の裏までも照し、西陽しか入らない狭小地に対して、ムラのない均質な様相を作りだしている。



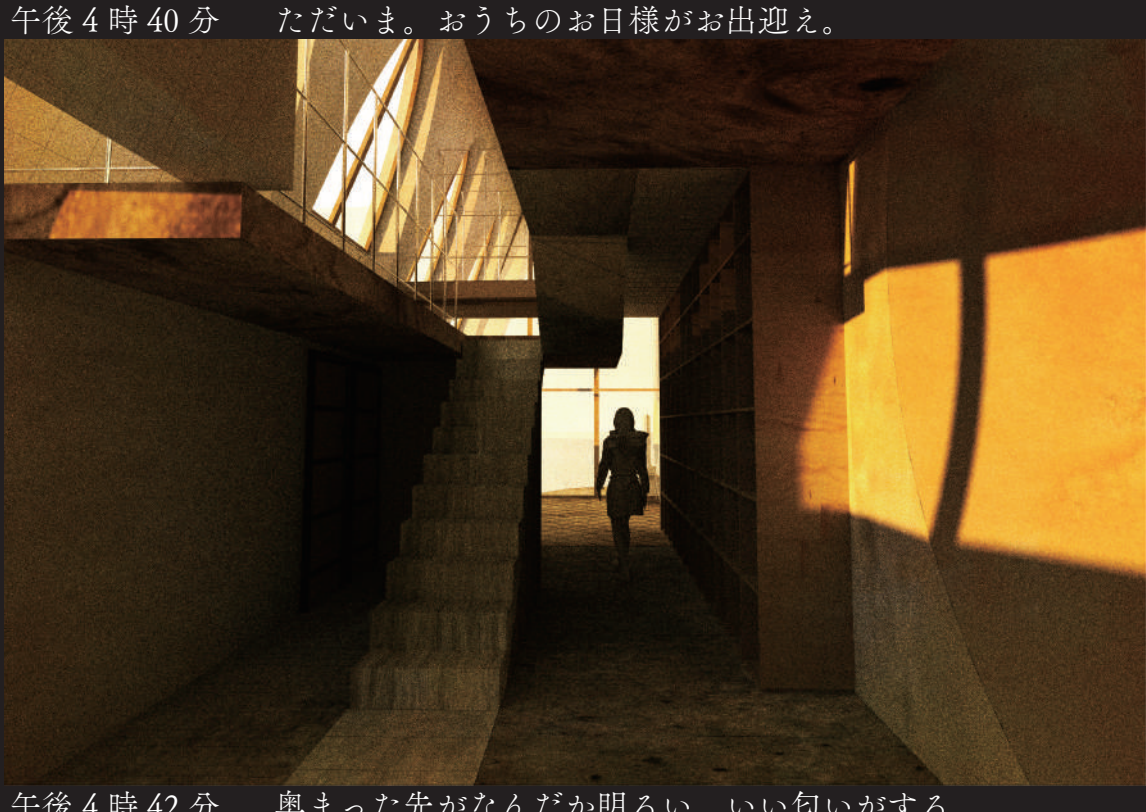
断面図 0 1500 3000 10500 (mm)

玄関から北東を見る



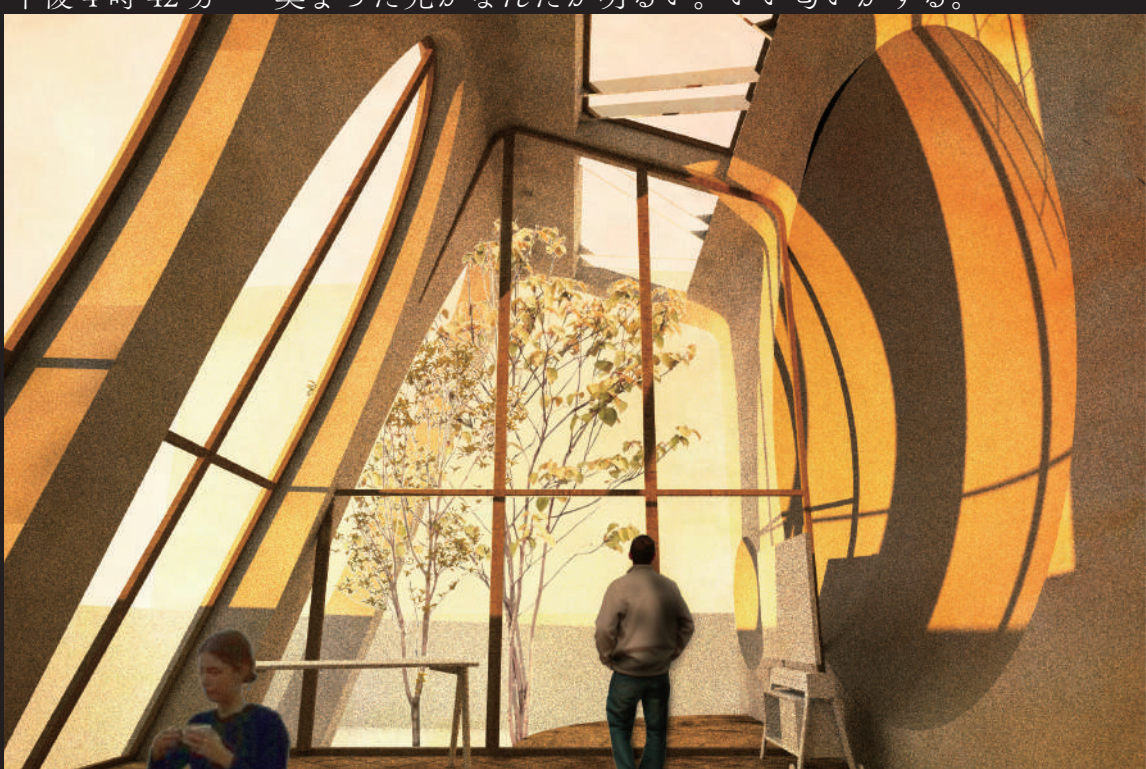
午後4時40分 ただいま。おうちのお日様がお出迎え。

趣味空間手前から北川を見る



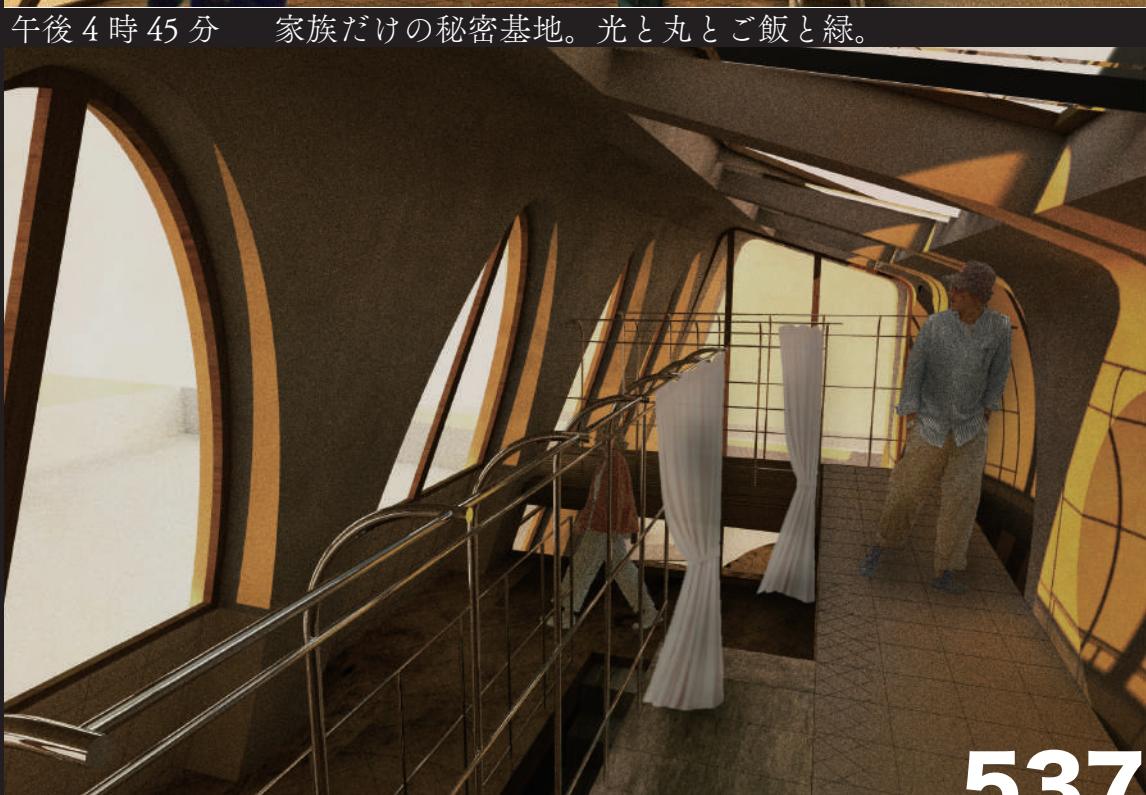
午後4時42分 奥まった先がなんだか明るい。いい匂いがする。

北側リビングから家族と庭と光を見る



午後4時45分 家族だけの秘密基地。光と丸とご飯と緑。

小居間から北側の通りを見る



午後4時55分 家族の気配。暖かい光のせいかなんだか安心感。